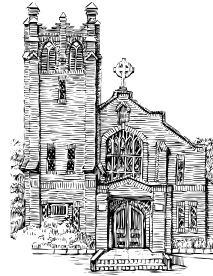


日本聖公会

大阪教区報



聖贖主教会

聖ガブリエル教会

守口聖オーガスティン教会

主教座聖堂 川口基督教会

日本聖公会
大阪教区総務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
osakakoho2022@gmail.com
発行責任者
総務局長 司祭 柳 時京

+++++ 第521号 2024年10月20日発行 +++++

「実れる田の面は見わたすかぎり」

ステラ・ミシエル 大倉有紀 聖職候補生

高槻に引っ越して来てから、久しぶりに見て懐かしかったのが田んぼです。私は父の仕事の都合で小学生の頃福岡の田舎で過ごしたので、通学路に田んぼや水路がありました。関西に帰って来てからはずっと街中に住んでいたのですが、まったく見る機会がありませんでした。今は、牧師館から自転車移動する途中に大きな田んぼがあるので、久しぶりに毎日田んぼを眺める生活を送っています。5月頃に水が張られて苗が植えられ、どんどん大きくなっていき、小さなお米の粒がそろいだし、から稲は緑から黄金色へと変化しています。田んぼが身近なおかげで、稲の成長と一緒に教会の緑の季節を過ごしているような気持ちになっています。

8月頃から日本全体で米不足となる現象が起きています。スーパーではお米が店頭にならなくなり、穀店に朝から人が並んでいるのによく見かけました。猛暑で昨年の米が不作であったことや、外国人

の消費が増えたことが原因だそうですが、南海トラフ地震や台風などの報道により、多くの人が不安を感じて家庭内備蓄のために普段より多くお米を購入したのも一因だと言われています。

ある時、たまたまSNSで、米を大量に購入している人に対し



して「買い占めだと辛辣な言葉で非難する投稿を見かけました。必要以上に個人で買い占めるなどの行為は確かに困りますが、そのような行為の根底にあるのが人間の「不安や恐れ」であるとしたら、責めてばかりもいられないのかなと思いました。人は皆

心のざわつきや陰を、何とかして埋めて安心したいと願う生き物です。また、もし大切な誰かのためであったら、他人から疎まれようと、なるだけたくさん安心材料を集めたくありません。自分を省みてほしいです。不安や恐れに飲み込まれそうになる時、私たちはどのように心を保ち、どう行動すべきなのでしょう。

マタイによる福音書9章35節から38節には「群衆に同情する」と題がつけられたイエス様の行動が記されています。『イエスは町や村を残らず回って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、ありとあらゆる病氣や患いをいやされた。また、群衆が飼いのいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。そこで、弟子たちに言われた。『収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってください。』

イエス様は宣教の中で、多くの人々が傷つき弱っているのを見て、何とかして彼らを救いたいと願われました。憐れみとは同情や思いやりをさらに超えた、慈しみと愛に満ちた行為です。イエス様は救いを求めている人々を深く憐れみ、そして彼らのことを「収穫」であると語りました。

ない羊のように弱り果て打ちひしがれようと、憐れみの水を注がれ、御言葉の光に照らされることで力を与えられて、成長することが出来ます。弱さと痛みの中で救いを求め、神の国に入ることを心から願っている者は、本当は神様に育まれ世を豊かにする実りなのです。イエス様は美しい穂波を思い起こし、深い愛をもって私たちを「収穫と呼んでくださったのではないのでしょうか。

不安や恐れに飲み込まれそうになる時、私たちは自分が弱く小さな存在であることを見つめることが必要なこともありません。どれだけ弱くとも、小さくとも、イエス様は見落とされることはありません。深い憐れみをもって、私たち一人一人を養ってください。自分が愛され、守られていると知ること、自分の隣にも同じように神様に愛されている穂が立っていることに気付けるのではないかと思います。

「実れる田の面は 見わたすかぎり 穂波の立ちつつ 輝きにおう」
原詞はおそらく麦を指していると思いますが、垂り穂という美しい日本語を、毎日見かける田んぼの稲に重ねて眺めています。今年もみんな美味しくおいしい新米を食べられますように。
(高槻聖マリヤ教会 定住)



2024年教区礼拝・午後プログラム 『 Pneウマの集い 』

司祭 ペテロ 金山 将司

去る9月23日(月・祝)に、大阪教区礼拝が、プール学院 中学・高等学校清心館にて開催されました。今年も例年の午前中ではなく、午後13時より開式となり、礼拝出席者は約300人、当日信施金は217,438円で、守口ぶどうの家と大阪聖三一教会、パレスチナ子どものキャンペーンと移民支援のラフイックにお届けされました。

礼拝の祭色は、聖霊、炎を象徴する赤が選ばれ、主教選挙を迎える大阪教区に聖霊の

降臨を祈るものになっていました。また今年も磯主教様の最後の教区礼拝であり、お説教の中では、大阪教区の次の世代への思い、教区の今後に期待すること、またこれまでの大阪教区主教としての歩みを振り返られました。

礼拝の終了後は、プール学院のカフェテリアに移動し、大阪教区生涯学習委員会の主催するPneウマの集いが開かれました。参加人数は、参加者45人、グループ進行役の教役者11人の合計56人で、主教様の説教を受けてどのように感じたのか、また教会の現状や、家庭での思いなど、グループごとに様々な分かち合いの時を持ちました。また、同時進行していたキッズ広場は20人、中高大生世代の集いは13人の参加者でした。

キッズ広場ではスライムなど子どもたちが楽しめる遊びが用意され、大人たちがPneウマの集いで語り合う傍らで、楽しくすごしました。また青年たちの集いではお菓子

と飲み物が用意されて、青年たちの語り合いの時をもつことができ、進行役に協力いただいたアモス金先生の雰囲気づくりが良く、青年たちからも「行ってよかった」という声を聞くことができました。

今年も大阪教区にとって大きな変革である主教選挙の年となります。そのことを見据えて、今回の教区礼拝では、『主教選挙に向けての祈り』というカレンダーが配られました。これは9月23日の教区礼拝から、11月4日の主教選挙の日まで、一日一日のお祈りが書かれたカレンダーとなっており、後日、各教会代議員の皆様、教会にも送付されますので、各教会でぜひお祈りいただければと思います。磯主教様の時代から新たな主教様を選ぶ、この歴史的転換の時、教区一丸となって祈り合いたいと願います。

(広報委員長)



2024 「信徒奉事者研修会」

ペテロ 鈴木 憲二

大阪教区主教座聖堂参事会が主催する「信徒奉事者研修会」は2024年8月25日(日)午後2時から石橋聖トマス教会にて開催された。夏の暑い最中32名が参加した。今回はみ言葉の礼拝の勧話について学びの時をもった。小野田芳大さんの開会の祈りに続き、内田望司祭からみ言葉の礼拝が多くある教会で行われている背景は定年退職される司祭に続く新しい聖職者が与えられない年もあり、多くの教会でみ言葉の礼拝は絶対的に必要なものとなってきている。

み言葉の礼拝の勧話で語られることは、司祭が作成されたものを代読するとか自分の信仰歴や他のテキストからの引用、聖書の言葉について語るなどがある。勧話をされる信徒奉事者は信徒として祭司職、預言職、王職に参与していると話された。

この後8月11日(日)の聖餐式日課箇所が読まれ、それにもとづいて実際にその日勧話をされた石橋聖トマス教会

の木村治美さんから勧話をしていた。3つの聖書箇所を読み、福音書を中心に礼拝に出席している方にお伝えしたいこと、心に響いた箇所を自分の考えや体験を通して文章にすると話された。作成した文章は司祭に確認されているということである。パンは聖書の多くの箇所に出てくるが、イエス様は命のパンであり皆で分けて食べる。大事な霊的なものと共に味わうと自分自身の体験を通して語られた。内田司祭からは神学校を出てきた方の様な話の組立方であると絶賛された。

その後休憩をはさんで夕の礼拝をもって会は閉じられた。会場を提供していただきお世話くださった石橋聖トマス教会の皆さんに感謝します。

(尼崎聖ステパノ教会信徒)



司祭の書棚から

河林 満 『渇水』

司祭 ヨハネ 古澤 秀利

昨年6月に「渇水」という映画が上映されました。生田斗真さんが主演で、とある地方自治体で働く水道局職員の話です。原作は河林満さん(2008年に52歳で逝去)が1990年に発表し、同年の文学界新人賞を受賞した同名の短編小説です。映画は悲しいながらも希望が見える終わり方ですが、原作では異なります。主人公は料金未納の家庭の停水執行(特殊な棒で止水栓を閉めて水道水の供給を停める)を担当している水道局職員で、ある小学生姉妹が住む家の停水を行った後、痛ましい事件が起こるまでを描きます。

テーマに違和感を持ったかもしれません。しかし、立川市の水道局職員を14年間務めた河林さんにとっては特殊なテーマではなかったのです。「渇水」はもう34年も前の小説です。しかし不思議なことにそこで物語られる出来事、すなわち水道が停められる様々な理由や、葛藤しながら停水執行を行う主人公の姿は今の時代を映し出しているように感じます。受賞当時この小説は「古風」と評されたそうですが、30年以上が経ったいま「貧困が拡大してようやく、自分たちがいま生きている社会が描かれている」と実感できるようなったのではないかと作品の解説者は語ります。河林さんは34年以上前の「好景気」時代にあつて、声なき人の声を聞いていたのかもしれない。映画版では主人公が何とか姉妹の声に向き合えた結果、その姉妹は児童相談所に迎えられます。小さな声に向き合うことで大きな変化が生まれる象徴のようでもあります。小さな声に向き合うこと、それは主イエスの生き方です。(大阪聖愛教会牧師、聖ガブリエル教会管理牧師)

「三いい」一体、いのち 彩る 祈り」改正祈禱書への招き

日本聖公会祈禱書小史①

司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

『祈禱書』が聖公会共同体とりわけ日本聖公会において、どれほど重要な役割を担ってきたかということは、その歴史を振り返れば明らかである。

1859年に長崎を訪れたC.M. ウィリアムズ主教が真っ先に行った活動は「主の祈り」、「十戒」、「使徒信経」の翻訳作業であった。その後、アメリカに一旦帰国し、大阪を訪れて日本聖公会最初の祈禱文ともいえる手写本である『早晚禱文・利多仁伊』を用いて祈りをささげ、英国SPGの宣教師の助けによって改めて作成された『朝晩禱文附リタニー』をもとに、米国聖公会と英国聖公会の宣教師によって開かれた宣教師会議を経て日本聖公会初の公式祈禱書である『聖公会禱文』が1879年に出版された。

『朝晩禱』が「朝の礼拝」と「夕の礼拝」に当たるものであることは容易に想像できる。リタニーとは原稿祈禱書の「嘆願」の部分に当たり、司式者と会衆が短い祈りの言葉で応答を続ける、聖公会の共同体性が最もよく表されている祈禱文の原型とも言える。『聖公会禱文』はこれに「聖餐式」、「幼児聖洗式」、「幼児聖洗自宅式」、「壮年聖洗式」、「公会問答」、「堅信礼式」が加えられたものである。

『聖公会禱文』は、米国聖公会とS.P.G、C.M.S(英国聖公会)の宣教師によって両聖公会祈禱書が翻訳されたものであった。日本聖公会はこの時から1938年祈禱書まで両聖公会祈禱書から翻訳された祈禱書を用いることになった。「祈禱書 = The Book

of Common Prayer」と考えると、「英国で用いられている祈禱書」がそのまま翻訳されていることが「一致」の象徴であるかのように思えてしまうかもしれない。実際、20世紀前半までは日本聖公会に限らず世界の聖公会祈禱書は英国聖公会祈禱書そのまま翻訳・使用することが通常であった(米国聖公会祈禱書はスコットランド聖公会の影響が色濃い)。その背景には、当時の英国の「植民地政策」も関係していたと考えられている。その後、2つの大きな世界規模の戦争を経験した聖公会共同体は1948年のラベンス会議である一つの指針を示すことになる。(続きは次号へ)

公 示

救主降生 2024年9月9日 教区主教 晴久
日本聖公会大阪教区 主教 アンデル

日本聖公会大阪教区第134(臨時)教区会を、下記のように招集します。

日時 2024年11月4日(月) 午前9時から午後5時
議場 日本聖公会大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)礼拝堂 大阪市西区川口1丁目3番8号
議題 大阪教区主教選挙

「日本聖公会教区主教選挙規則」第5条の定めにより、主教選挙候補者推薦管理委員を置き、委員を下記のように任命します。

司祭 テモテ 内田望、
ペテロ 内海良輔、
エステル 小川昌代
書記局を下記のように指名します。
司祭 ヨハネ 古澤秀利、
司祭 フランチェスコ 成岡宏晃、
司祭 アモス 金頭昇
以上

礼拝・音楽委員会主催
ともに学ぶ Vol.1 「チャントって何？」

リベカ 高木 弘子

7月28日(日)、川口基督教

会においてチャントの学びの時を持ちました。日頃慣れ親しんだチャントを唱え歌っています。チャントの意味や種類などについて深く知ることができ、また多くのチャントを体験する貴重な機会を得ることができました。講師は当委員でもありウイリアムス神学館教員、川口基督教教会オ

ルガニストの辻彩乃さんでした。 ①礼拝に荘厳さを加える②礼拝に大きな効果をもたらす③礼拝に美しさを吹き込む④集会における一致を助けるなどです。改めて意義を確認しました。確かに唱えるだけよりもメロディをつけて歌う方が心も込められ、耳から聞こえる効果も大きいと気づきました。

公 示

救主降生 2024年10月1日
日本聖公会大阪教区 教区主教
主教 アンデレ 磯 晴久

日本聖公会大阪教区第135(定期)教区会を、下記のように招集します。

記

日時 2024年11月23日(土/休)
午前9時(開会聖餐式)から午後5時

場所 日本聖公会大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)
大阪市西区川口1丁目3番8号

上記教区会の書記を下記のように指名します。

利宏晃 秀 澤岡 金 古成 浩 奈コ 古澤 秀
司祭 司祭 フランチェスコ アモス 書記 書記 書記

聖歌集580番の後ろのページに礼拝式文用曲譜(サービスマニュアル)が載っています。今回取り上げられたチャントは、聖餐式の曲譜より「キリエ」「大栄光の歌」「聖なるかな」「記念唱(キリストは死に)」「神の小羊」でした。

それぞれのチャントに数種類の作曲がされており、私たちはその中から一つを選んで礼拝で歌っています。歌いやすい・リズムカル・明るい・力強い・ポップ・覚えやすい等々、作曲者によって特徴があります。実際に歌ってみて作曲者の意図が分かり、今まで以上に内容が心に染み入り、大事な言葉、大事な音を感じました。

この経験を自分の教会に持ち帰り、皆でいろいろなチャントを歌ってみて、期節によって替えてみることも提案したいと考えるにいたりしました。

今回の「学び」のために準備していただき、わかりやすくお話しくださった辻彩乃さんに感謝いたします。参加人数52人。

(大阪聖ヨハネ教会信徒 / 礼拝・音楽委員)

夏のイベント
青年キャンプに参加して

レオ 小松 令旺

8月23日から25日にかけて、京都教区の青年部門が主催する青年キャンプに行ってきました。参加者もスタッフも同年代の人たちで、主題聖句の「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えあいなさい。(ペトロの手紙一4章10節)」に従って、それぞれのやりたいことをそれぞれで役割をもって協力して行う、かなり自主性の高いキャンプでした。

本来参加する予定だった梁執事が残念なことに体調不良のため参加できず、京都教区から日替わりで司祭さんや主教さんに来ていただきました。ありがとうございます。

キャンプ初日、特に印象的だったのは「光鍋」でした。「光鍋」とは、あらゆる食材を持ち寄って阿鼻叫喚の中食べる「闇鍋」の対義語として勝手に造語した単語で、「これ絶対鍋に入れたらおいしい」という食材をみんなを持ち寄った最高においしいはずの鍋のことです。鍋と言えは白菜やこんにゃく、ウインナーなどに加え、焼売やスパムなど

珍しくもおいしい食材が集まり、季節感を外している印象のあった夏の鍋は予想を上回る最高の鍋になりました。

二日目は朝から晩までスケジュールみっちりでした。特に夕方から夜にかけてはパーベキューにキャンプファイヤー、花火と盛沢山でした。実はこの日は雨の予報が出ており、これらのプログラムは開催が危ぶまれていましたが、雨に降られたのは全プログラムが無事に終了した直後でした。神様、プログラムが終わるまで待つてくださってありがとうございます。

三日目は京都教区主教である高地主教の司式で聖餐式を行いました。説教では主教が神学校にいらしたとき、言葉の真意は関係性によって決まるといった話をしてくださりました。

スタッフや参加者のほとんどは中高生向けキャンプであるJ'sキャンプの経験があったとはいえここまで自由なキャンプは初めてであり、キャンプ場の管理をしていただきつつあるキーパーさんに協力していただいていたかすべてのプログラムが完遂できたという感覚でしたが、反省点を含め、また行きたいと思えるような最高のキャンプでした。

(石橋聖トマス教会信徒)

『ウイリアムス神学館に入学して、半年が過ぎ...』
浅海 あさうみ 由里恵 ゆりえ

今年度より大阪教区神学生としてお許しをいただき、ウイリアムス神学館に入学させていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

私は幼少期より川口基督教会で育ち、教会学校や教会キャンプなどに参加していました。大学生になった頃、日韓聖公会青年交流プログラムに参加し、北東アジアにとっても興味を持ち、さまざまな青年交流プログラムや現場研修に関わるようになりました。

エキユメニカルの青年活動にもかかわったり、東北に移住をしたりといったこともしました。より韓国に近い教会に行きたいと思い、聖ガブリエル教会に教籍を移した時期もあります。さまざまなことに出会い、関わらせていただき、学ばせていただきながら、次第にいずれはさまざまな場所で出会った日本や韓国の教役者の方々のようになりたいと思うようになりました。しかし、「もういいか」とふらふらと違う道に行こうとする度

**聖ルシヤ教会
創立51周年記念
クリスマスコンサート**
2024年12月1日(日) 14時開演
会場：聖ルシヤ教会
出演 パルフェムジークアカデミー
(教区神学生)

**大阪教区 礼拝・音楽委員会主催
「奏楽奉仕者のつどい」のお知らせ**
日時 2024年 **11月17日(日)** 14時～16時
場所 川口基督教会
内容 聖餐式の聖歌の選曲について
(講師：辻彩乃氏) & 交流会
※参加費無料。参加お申込みについては、
配布のチラシをご参照ください

**テゼ共同体の歌 第2集
歌え神に 新しい歌**
日時 11月17日(日) 16:00～18:30
場所：サクラファミリア聖堂
(大阪高松教区カトリックセンター)

- 【常置委員会報告】 8/19 第15回(臨時)
 - 前半は、事業委員会との懇談会をし、教区館・主教館の土地活用について意見交換を行った。
 - 連合男子会作成の「教区の将来のための祈り」を一部修正し、教区共通の祈り文とする。
 - 主教選挙および教区の今後の予定について協議し、主教選挙候補者推薦管理委員会を設置することとした。
 - エスターマクストン神学生について、主教面談の報告を受けた。聖職者ではなく信徒として教会奉仕に携わることを確認し、大阪城南キリスト教会の教会委員会との協議を経て、常置委員会として、聖職候補生志願を取り下げとする。
- 9/19 第16回(定例)
 - I. 主教報告及び諸報告
 - 人事について報告があった。
 - 9月・10月の主教の動向について報告があった。
 - II. 協議事項と主教諮問
 - 磯晴久主教感謝礼拝と感謝会は、2025年3月2日(日) 時間未定、川口基督教会にて行う。担当は義平雅夫司祭、太田幸彦主事。
 - 主教選挙にあたり、10月14日(月・休) 午後2時～4時、川口基督教会にて「主教職についての学びと祈りの集い」を開催する。
 - 11月23日(土・休) 第135(定期) 教区会に提示する常置委員会からの議案3件を承認した。
 - 教区婦人会より来年2月2日(日) 被献日の主日信施金を日本聖公会婦人会のために献金する要望を了承した。チャプレン内田望司祭より各教会へ案内を送る。
 - 奥村貴充司祭と今後について主教と常置委員と面談した。
- 【宣教局】 9/4 第8回
 - 京都教区主催の小学生キャンプ、J's キャンプ、青年キャンプに大阪教区から各1人ずつ参加した。
 - *大阪で開催の人権セミナーについて報告があった。
 - *主教選挙を迎えるにあたっての準備についてビジョンチームの活動報告があった。

大阪教区関係教役者レクイエム

毎月第2水曜日 川口基督教会
11月13日(水) 10:30~



説教者: 松平 功 司祭

- 1日 司祭 ジェームズ・ウイリアムス (1920英)
- 3日 司祭 パウロ 山本 早太 (1988)
- 4日 司祭 ヨハネ 張本 榮 (張準相1966韓)
- 宣教師 コンスタンス・メアリー・リチャードソン (1968英)
- 5日 司祭 パウロ 後藤 光敏 (1971)
- 司祭 イザヤ 浦地 洪一 (2021)
- 9日 司祭 ヨハネ 有近 康男 (1991)
- 11日 司祭 ヨハネ 伴 君保 (1956)
- 12日 宣教師 レイチェル・ドーラ・ハワード (1947英)
- 17日 宣教師 ガートルード・E・コックス (1906英)
- 19日 司祭 ヨハネ 側垣 正巳 (1997)
- 20日 司祭 ホレイス・ジョージ・ワレン (1950英)
- 21日 主教 ホレイス・H・プライス (1941英)
- 22日 司祭 ベルナルド 小穴 藤雄 (1971)
- 23日 司祭 北川 千代吉 (1939)
- 30日 宣教師 アミー・キャロライン・ボサンケット (1950英)
- ?日 宣教師 アンナ・マリア・タブソン (1940英)

12月10日(水) 10:30~

説教者: 韓 相教 司祭

- 1日 宣教師 エディス・イライザ・ソープ (1930英)
- 2日 主教 チャニング・ムーア・ウイリアムズ (1910米)
- 4日 司祭 テモテ 山本 登 (2009)
- 13日 司祭 ジョン・キャリー・アンブラー (1946米)
- 16日 司祭 尾形 虎三 (1945)
- 17日 司祭 アーサー・ラザフォード・モリス (1912米)
- 18日 宣教師 ジェーン・キャスパリ (1888英)
- 19日 司祭 ダニエル 小池 慶二 (2014)
- 22日 伝道師 清田 海一郎 (1904)
- 27日 司祭 ヘンリー・レナード・プレビー (1942英)
- 28日 伝道師 大塚 惟明 (1928)
- 29日 司祭 マルコ 伊墻 八東 (1978)
- 30日 宣教師 オードリー・M・ヘンティー (1970英)

教区墓地礼拝のご案内

日時: 2024年11月2日(土) 14時より
 場所: 大阪霊園 大東市龍間331
 TEL 0120-69-1117
 お問い合わせは 大阪教区事務所 太田まで

お詫びと訂正
 ○521号6頁 逝去記念式
 深田直太朗司祭
 (1971)↓(1945)

魂の平安をお祈りします

- イサク 平田 徹 (6月5日・89歳)
- サラ 加藤 栄子 (8月19日・87歳)
- 東豊中聖ミカエル教会
マリヤ 柏尾 法子 (7月22日・84歳)
- 西宮聖ペテロ教会
エリザベツ 小野 晶子 (7月29日・99歳)
- 武藤 武弘 (8月6日・94歳)
- アトレイド 小川 道子 (8月17日・93歳)
- 大阪聖ヨハネ教会
ポーロ 牧口 一二 (9月26日・87歳)

洗礼

- *台湾地震のための献金額を
確認した。
 - *【総務局】
*教区内の各委員会の位置付
けについて検討する。
 - *大阪教区のリーフレット作
成をする。
 - *教区の今後の祈りのカード
をビジョンチーム担当で作
成する。
 - *【協議事項】
*9/23の教区礼拝の準備、
担当等について協議した。
- 大阪聖愛教会 (3月24日)
メスミドウルヤサンダナヤケ
聖贖主教会 (6月30日)
シメオン 中島 重信
大阪城南キリスト教会
マリヤ・マグダレナ 嶋野 陽菜 (8月18日)
川口基督教会 (9月1日)
ベネディクト 土井 幸一 (9月15日)
ヴェロニカ 有田 琴音 (9月8日)
ソロモン 光山 毅

初陪餐

- 大阪聖愛教会 (3月24日)
メスミドウルヤサンダナヤケ
大阪城南キリスト教会 (8月18日)
マリヤ・マグダレナ 嶋野 陽菜 (9月1日)
川口基督教会 (9月1日)
ベネディクト 土井 幸一 (9月8日)
大阪聖ヨハネ教会 (9月8日)
ソロモン 光山 毅

堅信

- 聖贖主教会 (6月30日)
シメオン 中島 重信
大阪城南キリスト教会 (8月18日)
マリヤ・マグダレナ 嶋野 陽菜 (9月8日)
大阪聖ヨハネ教会 (9月8日)
ソロモン 光山 毅

逝去者

- 川口基督教会
マリヤ 酒井 眞理子 (1月8日・77歳)

受按

- 大阪聖愛教会 (3月24日)
メスミドウルヤサンダナヤケ